

物価高騰で 医療機関の 給食コスト増大 入院時食事療養費は 既に逆ザヤ

世界的物価高騰は「医療機関の給食提供」にも影響を及ぼしている - 茨城県保険医協会が昨年10月に行った、県内医療機関を対象とした医療機関給食提供・影響調査において、現行の入院時食事療養費では逆ザヤが生じていることが明らかとなった。

調査は昨年10月3日(火)～10月20日(金)にかけて行い、食事提供を行う会員医療機関185医療機関に調査用紙を送付。53医療機関(28.6%)から回答を得た。

一昨年6月と昨年6月の食事療養に関する費用を調査。1食あたりの費用は、給食事業を委託している医療機関で616円(一昨年)→665円(昨年)と49円の増加となった。1日3食提供と仮定すると、昨年6月の費用は1,995円となる。この時点で既に公定価格1,920円を75円上回る逆ザヤが生じていた。

費用値上げの理由については、食材費高騰や人件費増大をあげる医療機関が多く、30年近く据え置かれた入院時食事療養費への対応は急務となっている。2024年度診療報酬改定では、入院時食事療養費は患者負担増により1食30円(低所得者は10～20円)の引き上げが行われる。

各医療機関からの入院食、食材費等への影響に関する回答では、「食材費高騰、水道光熱費の上昇にある中、給食の質を落とすこともできず、頭を悩ませている」、「献立のバリエーションを減らした」、「青魚の割合が減り、安い白身魚や加工品へ食材変更」、「診療報酬の中で賄っていくのは限界」「業者からは値上げ交渉ではなく、値上げの決定通知が送られてきた」といった声が寄せられた。